

平成24年度 補助事業評価（事後評価）

畑地帯総合整備事業

だいになんぶ
第2南部地区

【基礎資料】

平成25年2月

【事業の概要】

事業名 : 畑地帯総合整備事業
総事業費 : 1,521百万円
受益面積 : 1,033ha
受益者数 : 118戸
工期 : 平成14年度から平成18年度まで
関係市町村 : 網走市
主要工事 : 区画整理 467ha
暗渠排水 16ha
土層改良 588ha



写真① 区画整理施工状況



写真② 暗渠排水施工状況



写真③

- ・着手前（窪地地形で急傾斜のため農地としては一部しか使用できない）



写真④

- ・完成（勾配修正により一体的に農地として利用可能）

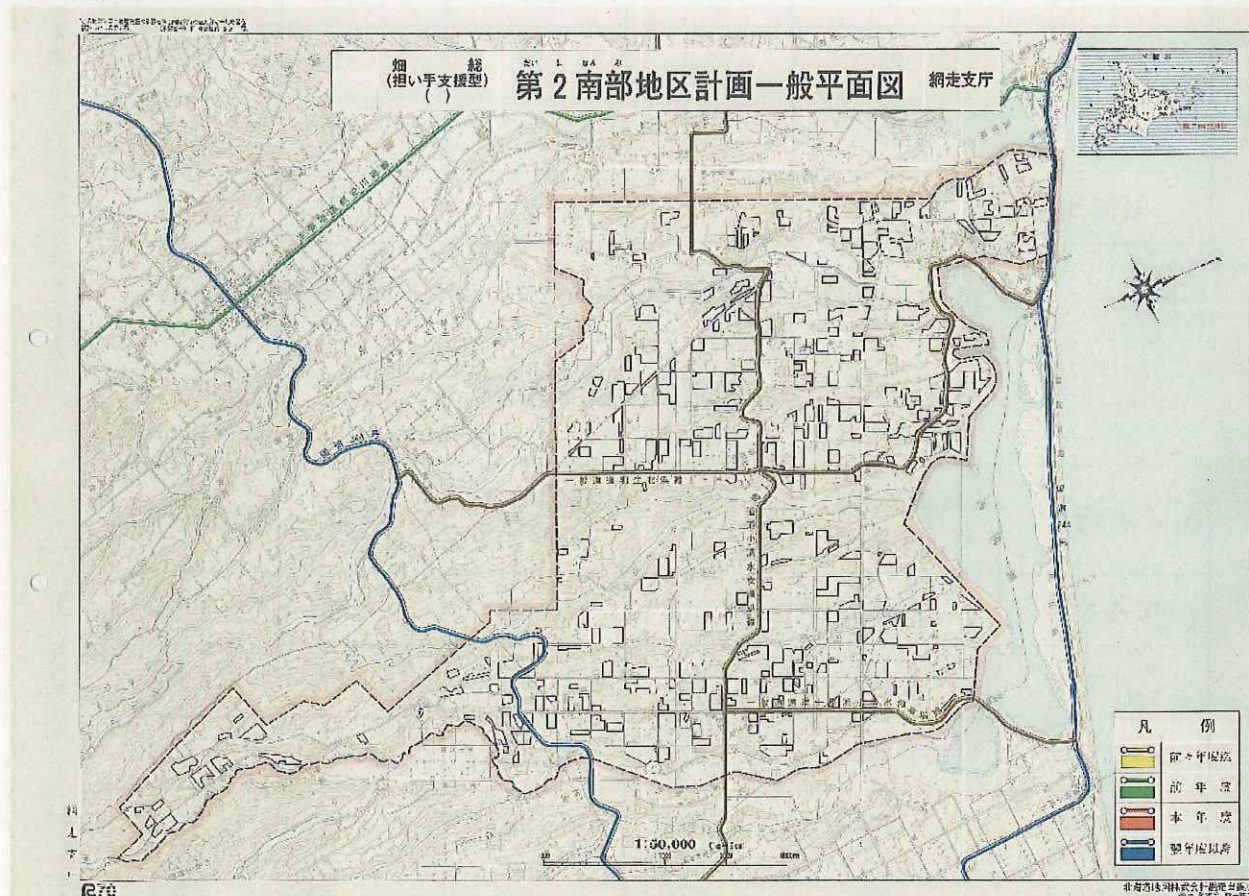
【事業の背景】

網走市は、北海道のオホーツク海側、オホーツク総合振興局管内の東部に位置し、東に小清水町、西に北見市、南に大空町、北はオホーツク海に面している。本地区は、網走市東部に位置する^{とうふっこ}濤沸湖南部の標高20～80mの台地上の地形に位置し、小河川によって開拓されたため、低湿地となっている。気候は一年を通じて晴天が多く、年間降水量・降雪量は少ない。海に面するため寒暖差も少なく、北海道東部としては比較的温暖な気候である。

作付体系は、小麦、てんさい、ばれいしょの畑作3品を中心とした輪作体系に加え、最近では高収益作物のだいこん、やまのいも、ごぼうを導入した複合的な農業体系を形成している。

土壌は、大半が保水性に乏しく下層が堅密で透水性が低いため作物の栽培管理に支障を来し生産性が低い土壌に覆われていた。よって暗渠排水及び土層改良等の生産基盤整備を総合的に実施し、担い手農家ほ場を中心とした基盤整備の推進により生産コストの低減を図り、収益性の高い安定した農業経営を確立するために本事業を実施した。

【位置図】



ア 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

1 農作物の生産量の変化

てんさい、ばれいしょについては、畑の排水性の向上が図られ、かつ地域の振興作物に位置づけられたことにより計画を上回る作付けとなっている。

なお、てんさい、ばれいしょの作付は、当初、小麦の作付を計画していたほ場の一部にも及んでいる。(表－１)。

てんさい、ばれいしょ、だいこんの作付面積の増加に伴い、生産量、生産額も増加している。(表－２、表－３)。

表－１ 作物面積（関係集落）

単位：ha

作物	事業実施前 ①	計画 ②	評価時点 (H24) ③	増減 ③－①	増減率(%)
てんさい	343	343	377	34	9.9
小麦	335	335	261	△ 74	△22.1
ばれいしょ	285	285	325	40	14.0
だいこん	23	23	24	1	4.3
やまのいも	23	23	23	0	0.0
ごぼう	23	23	23	0	0.0

(出典：事業計画書、ＪＡオホーツク網走聞き取りによる。)

表－２ 生産量（関係集落）

単位：t

作物	事業実施前 ①	計画 ②	評価時点 (H24) ③	増減 ③－①	増減率(%)
てんさい	21,463	23,317	25,644	4,181	19.5
小麦	1,589	1,683	1,313	△ 276	△ 17.4
ばれいしょ	13,455	14,621	16,673	3,218	23.9
だいこん	798	897	920	122	15.3
やまのいも	600	674	663	63	10.5
ごぼう	559	628	617	58	10.4

(作付面積×単収)

表－３ 生産額（関係集落）

単位：百万円

作物	事業実施前 ①	計画 ②	評価時点 (H24) ③	増減 ③－①	増減率(%)
てんさい	365	396	436	71	19.5
小麦	259	274	206	△ 53	△ 20.5
ばれいしょ	175	190	200	25	14.3
だいこん	45	50	52	7	15.6
やまのいも	161	181	99	△ 62	△ 38.5
ごぼう	83	94	80	△ 3	△ 3.6

（出典：事業計画書、ＪＡオホーツク網走聞き取りによる。）

【整備前】

～ほ場の乾きが遅い、病気の発生～



～生育が不揃い～



写真⑤ 暗渠排水未施工ほ場状況

【整備後】

～ほ場の乾きが早い、大型機械の導入～



～生育が良い～



写真⑥ 暗渠排水施工ほ場状況

2 営農経費の節減

排水条件の改良及び急傾斜の改善により、大型農業機械の作業効率が向上するなど農作業に係る労働時間等の節減が図られている。(表－４～５)。

表－４ 労働時間(人力)の節減状況(排水改良)

単位：hr/ha

	てんさい	小麦	ばれいしょ	だいこん	やまのいも	ごぼう
事業実施前	155	20	91	428	949	258
計画	125	13	68	382	910	216
評価時点 (平成24年)	109	13	71	228	931	238

(出典：事業計画書等)

表－５ 機械経費の節減状況(排水改良)

単位：hr/ha

	てんさい	小麦	ばれいしょ	だいこん	やまのいも	ごぼう
事業実施前	29	18	33	199	198	123
計画	18	11	18	179	181	95
評価時点 (平成24年)	20	11	20	91	158	103

(出典：事業計画書等)

イ 事業効果の発現状況

1 事業の目的に関する事項

排水条件の改良により湿害が解消され、単収が増加するなど、農業生産性の向上が図られている（表－6）。

表－6 作物単収の変化

単位：kg/10a

	てんさい	小麦	ばれいしょ	だいこん	やまのいも	ごぼう
事業実施前	6,261	475	4,721	3,410	2,565	2,387
評価時点 (平成24年)	6,768	503	5,088	3,716	2,791	2,597

(出典：事業計画書等)

2 土地改良長期計画における施策と目指す成果等の確認

○ 農地の大区画化・汎用化等による農業の体質強化

1戸当たりの経営面積は、関係集落において平成13年の27haから平成24年には29haに拡大し、経営規模20ha以上の大規模経営農家の割合についても平成13年の92%から平成24年度には100%に増加しており、経営規模の拡大が図られている（表－7）。

また、地区内の認定農業者数は事業実施前の62人から評価時点で115人に増加している。

表－7 経営規模別農家戸数の変化（関係集落）

単位：戸

	農家 戸数	戸当 面積	経営規模						大規模化 (20ha以上、 戸数割合)
			自給的農家	～3ha	3～5ha	5～10ha	10～20ha	20ha～	
平成13年	128	27	0	1	0	0	9	118	92%
			0%	1%	0%	0%	7%	92%	
平成17年	118	29	0	0	0	0	0	118	100%
			0%	0%	0%	0%	0%	100%	
平成24年	118	29	0	0	0	0	0	118	100%
			0%	0%	0%	0%	0%	100%	

(出典：農林業センサス)

ウ 事業により整備された施設の管理状況

本事業で整備を行った農地は、受益農家により管理されている。

エ 事業実施による環境の変化

区画整理に併せ沈砂池を設置し、周辺の小河川への土砂流出が抑制されている。



写真⑦ 農地の土壌流亡



写真⑧ 農地周縁の浸食



写真⑨ 沈砂池



写真⑩ 大雨時降雨が沈砂池へ流れる

オ 社会経済情勢の変化

1 社会情勢の変化

① 総人口

網走市の総人口について、平成12年と平成22年を比較すると6%減少し、北海道全体の減少率3.1%を上回っている。(表-8)

表-8 人口及び世帯数の変化

地帯	区分	平成12年	平成22年	増減率
北海道	総人口	5,683,062人	5,506,419人	△3.1%
	総世帯数	2,306,419戸	2,424,317戸	5.1%
網走市	総人口	43,395人	40,998人	△6%
	総世帯数	18,012戸	18,112戸	1%

(出典：国勢調査)

② 産業別就業人口

産業別就業人口は各産業で減となっているが、比率については大幅な増減はみられない（表－9）。

表－9 産業別就業人口の変化（網走市）

単位：人、%

		第1次産業	第2次産業	第3次産業
事業実施前 (H12)	就業者数	2,392	4,937	14,446
	比率	11	23	66
評価時点 (H22)	就業者数	2,136	3,111	12,659
	比率	12	17	71

（出典：国勢調査）

2 地域農業の動向

① 耕地面積

網走市の耕地面積は、平成12年の11,471haから平成22年には12,638haと増加している（表－10）

表－10 耕地面積の変化（網走市）

区分	平成12年	平成22年	増減率
耕地面積	11,471ha	12,638ha	10%

② 農業就業人口

網走市の農業就業人口は、平成12年の1,363人から平成22年には1,067人と減少し、65歳以上の割合は平成12年の26%から平成22年には22%となっている（表－11）。

表－11 年齢別農業就業人口の変化

単位：人

		農業就業人口					高齢化率 (65歳以上)	就業人口 減少率
			うち 39未満	うち 40～59	うち 60～64	うち 65以上		
網走市	事業実施前 (H12)	1,363	352	544	113	354	26%	
			26%	40%	8%	26%		
	完了時 (H17)	1,235	284	535	70	346	28%	9%
			23%	43%	6%	28%		
	評価時点 (H22)	1,067	266	468	101	232	22%	14%
			25%	44%	9%	22%		

（出典：農林業センサス）

③ 農家戸数及び認定農業者数

農家戸数は、平成12年の468戸から平成22年には406戸に減少しているが、認定農業者は平成17年の288人から平成22年の374人と増加している（表－12）。

表－12 農家戸数及び認定農業者数の変化（網走市）

区分	平成12年	平成22年	増減率
農家戸数	468戸	406戸	△13%
認定農業者数	288人※	374人	30%

（出典：農家戸数は農林業センサス、認定農業者は北海道農政部調べ）

※はデータのある平成17年数値

カ 今後の課題等

本地域で生産される農産物は道内外から高く評価されているが、従来の原料供給型農業から、小麦の新品種「春よ恋」を使用した加工品の開発やブランド化、地産地消、販路拡大等をさらに進め、個々の農業経営の所得向上はもとより地域における雇用の創出等を通じ、地域全体の所得向上や地域の活性化を図る必要がある。